

## 第一章、これで完成！

医薬品のリスク  
評価

小児・高齢者・  
妊婦への配慮

薬害

## 用語の確認

### 血液—脳関門

- ◆ 脳に物質を移行させるかどうかを決める門番の役割がある
- ◆ 基本的に、脳に必要なものを通し不要なものは通さない
- ◆ アルコール、ニコチン、カフェインなどは通りやすい  
→中枢性の副作用が起こる

### 血液—胎盤関門

- ◆ 胎児はへその緒（臍帯）から胎盤を介し、母体の血液中の酸素や栄養素のやり取りをしている
- ◆ 胎盤にある胎児の血液と母体の血液とが混ざらない仕組みのことで、母体から胎児に物質を移行させるかどうかの門番の役割がある
- ◆ 母体が医薬品を使用した場合に、血液-胎盤関門によって、どの程度医薬品の成分の胎児への移行が防御されるかは、未解明のことも多いため、一般用医薬品においては「相談すること」に書かれていることが多い

## 小児への配慮

- **血液—脳関門**が未発達  
→中枢の副作用が出やすい
- 大人と比べ、身体の大きさに対して腸が**長い**  
→相対的に医薬品の吸収率が**高い**
- **肝臓や腎臓**が未発達  
→薬の作用が強くなる

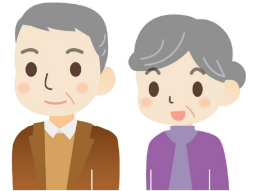


### 小児の年齢の定義「いない子」

**1歳未満**・**7歳未満**・**15歳未満**  
乳児 幼児 小児

## 高齢者への配慮

- **のどの筋肉が衰えている**  
→薬を飲み込みづらい、誤嚥の誘発
- **肝臓や腎臓が衰えている**  
→薬の作用が強くなる



### 高齢者の年齢の定義

「老後」= **65歳以上**

## 妊婦・授乳婦への配慮

- 妊婦が注意したい成分
- ① ビタミンA：多量服用で先天性異常が起こる恐れあり  
特に**妊娠前後3カ月**は注意
- ② 刺激性便秘薬：**流産**や**早産**を誘発する恐れがある

### 授乳婦が注意したい成分

- ① ジフェンヒドラミン類：乳児が**昏睡**を起こす恐れ
- ② アミノフィリン：乳児に**神経過敏**を起こす恐れ
- ③ ロートエキス：乳児が**頻脈**を起こす恐れ
- ④ センノシドやダイオウ：乳児が**下痢**を起こす恐れ
- ⑤ コデイン類：乳児が**モルヒネ中毒**を起こす恐れ  
→使用を避けるか服用する場合は授乳を避ける

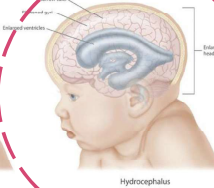


## 妊婦が注意すべき成分：ビタミンAによる先天異常

### 水頭症

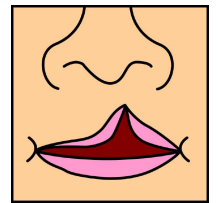


No Hydrocephalus



Hydrocephalus

### 口蓋裂



※先天異常の名前までは試験には出題されません